# ８［評論］『言語の社会心理学』

　一般的にいって電子コミュニケーション上では①自己開示は促進されやすい。これは現在、実に多くのブログやツイッターなどが立ち上げられ、そこで数え切れないほどの「自己開示」がなされていることを見ても容易にａソウゾウできる。調査や実験的研究においても、メールやチャット上では対面場面よりも自己の内面的なことが話されやすい、つまり深い自己開示が行われやすいことが確認されている。

　さて、自己開示が増える重要な条件は、非言語的手がかりが少なく匿名性が保たれることである。電子コミュニケーションの際に相手の顔が見える場合と、全く顔が見えず文字で情報交換する場合とを比較した実験でも、後者のほうが自己開示が増えることが確認された。

　なぜ電子コミュニケーションで自己開示が促進されるのか。この実験を行ったジョインソンという研究者は、自己意識という観点から論じている。自己意識というのは文字どおり自分自身を意識することであるが、これには②「公的自己意識」と「私的自己意識」という二つの面がある。前者は他人の目をどれだけ気にするかを指す。たとえば、自分が他人にどう思われているかを気にするとか、自分のｂヨウシを気にするとかがそれに当たる。後者は自分の内面への関心である。自分は何をしたいのか考えたり、自分の心、気分、性格などに注意を向ける、といったことである。これら二つの自己意識は、同じ人でも場面によって高くなったり低くなったりすることが知られている。

　右で述べたように相手の顔が見えず匿名的になるというのは、［　　Ⅰ　　］を意識しなくていい場合だから、公的自己意識が低まっているｃジョウキョウと考えられる。多くの電子コミュニケーションで自己開示が増えるのは、一つはこのためであると考えられる。

　それでは、自分の内面に心を向ける私的自己意識のほうはどうか。ジョインソンは次の実験で、公的自己意識の条件とは別に、私的自己意識を高める条件をｄドウニュウした。過去の研究で、たとえば鏡で自分の姿を見たり、カメラを自分に向けられると私的自己意識が高まることが知られている。そこでこの実験では、自分自身の映像をコンピュータ・スクリーンに映し出すという手続きによって私的自己意識を高めることにした。

　実験の結果、自己開示が増えたのは私的自己意識が高まっており、しかも同時に公的自己意識が低くなっている場合であった。私的自己意識が高まると、自分の性格、考え方など自分の内面のことをいろいろ考えるようになる。しかも公的自己意識が低ければ他人の目を気にしない。そこで自分の内面についていろいろと話をしやすくなった、とｅスイソクされている。

　この実験では私的自己意識を映像によって高めたのであるが、そうしたことがなくてももともと私的自己意識の高い人もいるし、逆に低い人もいる。つまり性格として私的自己意識の高低には［　　Ⅱ　　］がある。電子コミュニケーションで自己開示をとくにしやすい人は、性格的に私的自己意識が高く、自分のことを内省したり、性格の長所短所などをいろいろ気にかけやすい人ということになろう。

●語注

ブログ＝ウェブ―ログの略。不定期に更新される日記形式のウェブサイトの総称。

ツイッター＝140字以内の短文のみに対応する、ネット上の電子メール的な情報サービスの一つ。

チャット＝コンピュータネットワークを通して、リアルタイムに短い文章を実際の会話のようにやりとりするシステムのこと。

問１　二重傍線部ａ～ｅのカタカナを漢字に直せ。2点×5

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問２　傍線部①とあるが、ここでいう「自己開示」の説明として最も適当なものを次から選べ。7点

ア　電子コミュニケーション上における文字を使って、自分の内面を話すこと。

イ　不特定多数の人と、メールやチャットなどのツールを使って会話すること。

ウ　自分が他人の目をどれだけ気にしていたのかを、誰かに打ち明けること。

エ　自分のやりたいことを、ネット上で知り合った人達と一緒に考えること。

オ　電子コミュニケーションを使って、自分のプロフィールを公表すること。

〔　　　〕

問３　傍線部②とあるが、次にあげる様子は、Ａ「公的」Ｂ「私的」どちらの自己意識が働いていると考えられるか。それぞれ記号で答えよ。3点×4

ア　将来の夢について考える。

イ　今日着ていく服を決める。

ウ　失敗したことを反省する。

エ　相手の顔色をうかがう。

ア〔　　　〕　イ〔　　　〕　ウ〔　　　〕　エ〔　　　〕

問４　空欄Ⅰに入る最も適当な語句を本文中から四字で抜き出せ。 6点

〔　　　　　　〕

問５　空欄Ⅱに入る最も適当な言葉を次から選べ。 6点

ア　個人差　　イ　温度差　　ウ　時間差

エ　能力差　　オ　学力差

〔　　　〕

問６　結局、電子コミュニケーションで自己開示が促進される理由として最も適当なものを次から選べ。9点

ア　公的自己意識が高くなり、私的自己意識も高くなって、自分のことがとても話しやすくなるから。

イ　公的自己意識が高くなるが、私的自己意識は低くなって、他人のことが気にならなくなるから。

ウ　公的自己意識が低くなり、私的自己意識も低くなって、周りのことが気にならなくなるから。

エ　公的自己意識が低くなり、私的自己意識は高くなることで、自分のことが話しやすくなるから。

オ　公的自己意識が低くなっても、私的自己意識を失わないことで、自分を保つことができるから。

〔　　　〕

【解答】

問１　ａ想像　ｂ容姿　ｃ状況　ｄ導入　ｅ推測

問２　ア

問３　ア＝Ｂ　イ＝Ａ　ウ＝Ｂ　エ＝Ａ

問４　他人の目

問５　ア

問６　エ

■覚えておきたい語句

□1　促進……………………物事がはかどるように、うながしてすすめること。

□5　匿名……………………実名を隠すこと。

□28　内省……………………自己を深く省みること。〔類〕反省

〔要　約〕

問題提起の［3］段落と、答えに当たる［4］・［7］段落を中心に要約する。

　　　　↓

電子コミュニケーション上で内面的なことを話す自己開示が促進されるのは、それが匿名的であるために公的自己意識が低くなるからである。また性格的にも私的自己意識の高い人は、自己開示をしやすい人といえる。（98字）

〈筆者＆出典〉岡本真一郎（おかもと・しんいちろう）一九五二年（昭和27）岐阜県生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。現在、愛知学院大学心身科学部心理学科教授。専攻は社会心理学。「ことばが対人関係をどのように調整しているか」をテーマに、ことばとコミュニケーションに関して社会心理学的な立場からの研究を行っている。本文は、『言語の社会心理学』（中公新書、二〇一三年）より。

【読みのセオリー】

★空欄補充では文脈を読む

　空欄補充問題では、文脈（コンテキスト）の読み取りがカギである。空欄の前後のつながりを考えるのである。空欄の前でどのようなことが述べられているか。空欄の後ではどうか。それを読み取り、二者の関係をとらえていくことが、文脈を読むということ。

■読みのセオリー［実践］空欄補充では文脈を読む

問４　「相手の顔が見えず匿名的になる」ことで、「意識しなくていい」と考えられるものとは何か？

［4］段落

右（［3］段落）で述べたように相手が匿名的になるとは、

［１　　　　］を

　　↑（何を？）

意識しなくていい場合。

問５

　〈空欄の前の一文〉

もともと私的自己意識の高い人もいるし、逆に低い人もいる。

　　　＝　つまり

性格として私的自己意識の高低には、［２　　　　］がある。

〔解答〕　１他人の目　２個人差

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊新問

問　６行目Ａ「相手の顔が見える場合」、Ｂ「全く顔が見えず文字で情報交換する場合」はどんな意識が高まっているのか。それぞれ本文中から六字で抜き出せ。

［答］　Ａ＝公的自己意識　Ｂ＝私的自己意識

＊新問

問　17行目「このため」とはどのためか。本文中から一三字で抜き出せ。

［答］　公的自己意識が低まっている〔ため。〕

＊新問

問　19行目「私的自己意識を高める条件」とは、具体的にどのようなことをしたのか。本文中から二五字で抜き出せ。

［答］　自分自身の映像をコンピュータ・スクリーンに映し出す